

ΔΥΝΑΜΙΣ

No.12

1992.1.1

Tolle, Lege 「取って読みなさい」

渡 邊 頼 純

“Tolle, Lege” この言葉を聞いて初代キリスト教会最大の教父といわれる聖アウグスティヌス(354~430)は回心する。彼はミラノのある家の庭でTolle, legeと聞こえる子供の歌声を聞いたことをきっかけに聖書(ローマ人への手紙13章13-14節)を開き読む。そして自らの内的葛藤に終止符を打ち、遂に回心する。その時聖アウグスティヌスは32歳位だったと言われている。

聖アウグスティヌスは、北アフリカのローマ帝国領土ヌミディア州のタガステに異教徒の父と熱心なキリスト教信者の母(聖モニカ)との間に生まれた。今様に言えば、おそらくは割と裕福なビジネスマンで世俗的な信心しかない父親と、当時ニケーアの宗教会議等が開かれて教義らしいものの輪郭がやっと出来つつあった程度の言わば[新興宗教]キリスト教を真剣に信じている母親との間にアウグスティヌスは生を受けたということになる。

そんな環境に育った彼はおそらくは知的好奇心の極めて旺盛な少年であったようだ。19歳で当時の[貿易立国]カルタゴに[留学]、キケロの哲学書を読んで哲学的精神を呼び起こされ、当時北アフリカ地方に流行していたマニ教という宗教に身を投じる。その間にガルフレンド(ズ)と深い仲になり、子供までつくってその子にAdeodatus([神によりあたえられし者]の意)という名を与えている点など本当に憎めない感じがする。

その後、カルタゴからローマに渡り、更にミラノに弁論術の教師として赴任、そこで司教のアムブロシウスと出会う。そのアムブロシウスから深い人格的感化を受けると同時に、新プラトン学派の哲学を学び、非形態的なものを見る目を開かれることになる。しかし、そのときの彼はまだ[悟り]を開けずに大いに思い悩み、心はちぎれに乱れていた。そんな時に子供の歌声にまぎれて聞こえてきたのがTolle, lege

[取って読みなさい]だったのである。彼がとって読んだ箇所には次のようにある。「主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません」ここでいう[着る]にはキリストとの霊的結合が表現されている。この結合を通して新しく生きる者とされ、古い自我と罪の生活に打ち勝つことができるようになるとのパウロの信念が伝わってくる。この箇所はパウロがローマにいるキリスト教徒へむけたメッセージと勧告の中で最も具体的な内容が入っている部分であり、なかなかパンチがある。この文句をアウグスティヌスが知らぬはずはなく、その内容の故にむしろ目をそむけたかったのかもしれない。そんな折にこのTolle, legeという歌声が彼の注意をあるいは意志を引き戻させたのである。

さて話を私たちの身近な大学図書館に戻そう。小生のような凡人にとっては聖アウグスティヌスのような宗教的回心は甚だ遠いものである。せいぜいできるとすれば知的な理解における回心、自らの知的暗さを改善する努力くらいである。大学の図書館というところはこのような[知的回心]を大いに助けてくれるところで、大学に生きる者にとってこの上なくありがたいものである。人との出会いがそうであるように、書物との出会いもまた決定的であることがしばしばである。聖アウグスティヌスが聞いたTolle, legeという声はひょっとしたら幻聴だったかも知れない。しかし、恐らく彼は神のメッセージを聞く耳をもっていたのであろう。あのような生き方を根本から変えるような回心に導く幻聴ならば私達も聞いてみたいものだ。日常の雑音に妨害されなければ私達を知的回心に導くTolle, legeが私達にも聞こえてきているのではないだろうか。

(Yorizumi, WATANABE:経済学部助教授)

《文庫訪問》

名古屋商工会議所情報サービスセンター

秋雨前線の影響で雨の降りしきる中、我々文庫取材班は公用車(何と91年型新車)に乗って、一路白川公園の側のあの名古屋商工会議所に向かった。

それにしても今年の秋は雨が多い。天気の良いれば、市バス、地下鉄と乗り継いで、伏見あたりから御園座を右に見て、散策しながら訪問するはずだったのだが、...

折からの雨で道は渋滞、カーラジオからは自民党の総裁選挙のニュースが空しく流れている。

さあ、仕事仕事、自らを奮い立たせて、商工会議所の地下駐車場に車を乗り入れた。目指すは地下2階、エレベーターで1階下がって707号に出ると案内板があり、売店、理容室まであっておどろき、訪問先はすぐにわかった。

早速、予め電話でお願いしてあった課長の柴田さんから情報センター(以下センターと略す)のあれやこれやについて伺うことになった。

創立明治43年10月(名古屋商工会議所図書室として一般に公開)、ということは南山大学よりはるかに歴史が古い。現在の場所には昭和42年10月に商工会議所が移転したのに伴い、地下2階に図書館として開設された。この間昭和30年7月に専門図書館中部地区協議会を設置。そして、平成2年10月から名古屋商工会議所情報サービスセンター(図書館)と名称変更、現在に至っている。

センターは、産業・経済に関する文献・資料を中心に各種調査研究資料、統計書、社史、名鑑類を収集・整備し、中部における産業経済関係の「情報サービスセンター(図書館)」として基礎資料を提供するとともに、会員並びに一般商工業者への閲覧に供している(平成2年度名古屋商工会議所事業報告書より)。

蔵書数(平成3年3月末)

(1)一般商工経済書	64,973冊
(2)特殊蔵書(東亜文庫、上遠野文庫等)	15,000冊
(3)その他(商工名鑑、雑誌等)	54,083冊
合 計	134,056冊

名古屋商工会議所の歴史は110年にもなり、古い統計資料も戦火を免れたので、調査研究の目的で古い文献を調べにセンターを訪れる利用者も多い。

各地の商工会議所が図書室、資料室を持っているが、図書館と呼べる規模を有するのは東京・大阪・名古屋だけで、センターは全国に77カ所ある「専門図書館協議会」(国立国会図書館が本部)の中部地区資料センターとして、政府刊行物等2万4千冊、定期刊行物202種を保有している。その傘下に約53の専門図書館がある。大蔵省をはじめ各省庁の政府刊行物はほとんど無料で送付されてくる。

センターには商工会議所の蔵書と専門(商工)図書館の蔵書と両方あって、後者には「専門」のマークがある。

資料費は図書・雑誌の購入、雑誌の製本代等に使われているが、特に高価な(10万円以上のものもある)「会社年鑑」「日本会社録」「会社総鑑」「帝国会社年鑑」「東商信用録」等は各種調査機関がよく利用に来るそうである。

特殊コレクションの「東亜文庫」は、中国など東南アジアについての古い和図書で、「上遠野(かど)文庫」は商工会議所第8代会頭(大正10年～昭和2年)上遠野富之助氏の寄贈によるもので、それぞれ「T」「K」の最初に「T」「K」を付すとともに別置してある。

所蔵資料の特色として、統計書の古いもの(明治、大正、昭和初期)が多く、社史(非売品、寄贈による)も約2,000冊あって(社史目録あり)、愛知県立図書館、名古屋市立鶴舞中央図書館より多い。

センターの書庫は合計643m²あって2カ所に分かれ、それぞれ2層構造でなおかつ随所に集密書架を使用してスペースを有効に使っている。その集密部分に古い新聞がマイクロフィルムでなく現物であるのがご自慢のようで、中日新聞の前身の新愛知新聞、名古屋新聞も製本して所蔵している。

センター職員は、柴田課長のほかに一般図書担当として専任が3名、特許関係業務等の7名も合わせて約10名である。

なお、センターは特許庁指定の地方閲覧所として、工業

所有権公報類935万余件を収庫、分類・整理し、一般企業に特許情報、技術情報を提供し、中部地域の技術水準の向上、技術開発の振興をはかるうえで貢献している。

また、閲覧室の一角に平成2年1月から電子出願システムが設置され、同年12月には共同利用端末機による電子出願が開始された(平成2年度事業報告書より)。

その関係でこの10月1日から中部通産局特許室が旧閲覧室に入所したため一般図書閲覧室は10席に減少を余儀無くされた。その閲覧室には全国の商工名鑑、商工会議所名簿、各種業界の月刊誌、新聞等とともに、おもしろいのは電話帳が北は北海道から南は九州、沖縄まで揃っていた(NTT指定閲覧所であるから)。

センターは現在使っている3つの目録カード(独自の分類記号別、著者別、書名別)をコンピュータで処理する構想を持っているが、なかなか予算がおりないようである。

利用について少し触れておこう。

貸出は商工会議所会員だけでなく、うれしいことに一般研究者から大学生まで3冊/2週間という条件で可能だから、経済・経営の学生も積極的に利用されるようお勧めする(夏休みなどよく利用されるとのこと)。

複写サービスもあるが、特許関係利用者を基準に料金設

定してあるので50円(会員45円)と高い。必要な時は資料を借りて街のコピー屋でコピーしたほうが安上がりである。

書庫の中に入らせてもらったが、意外な掘り出し物(古い資料)がありそうで、ここを訪れる一般研究者が書庫に入りたがるというのがわかるような気がした。

ちなみに官報は1号から揃っているそうである。先に触れた特許関係の利用者はやはり一般発明研究者より企業関係者が多いようである。

センターのこれからの方向性としては早くコンピュータを導入するとともにPRに力をいれて会員のみならず学生まで広く利用されることだと思う。

最後に開館時間と休館日を記して取材記録を締め括ろう。

開館時間	月曜日から金曜日まで	- 9:00~16:30
	土曜日	- 9:00~12:00
休館日	日祝祭日	

センター(図書館)で資料調べの帰りに近隣の白川公園に科学館、美術館そして少し歩けば映画館と"館"めぐりをしてみたら如何がかな?

(閲覧係 山口祐貴子、図書受入係 鈴木高康)



アウシュビッツ展 一平和を、人間の尊厳を、求めてー

開 期：1991年10月28日(月)から11月9日(土)まで
 11月4日(日)を除く12日間 午前9時から午後4時30分まで
 場 所：南山大学図書館 1階特設会場
 企 画：南山大学図書館広報委員会
 運 営：南山大学図書館事務部
 主 催：南山大学図書館
 入場者総数 1,519名 (会場でのパンフレット配布数)

アンケート回収数 661

所属：本学学生	331名	性別：男子	216名
本学教職員	31名	女子	397名
本学卒業生	39名	不明	48名
学外(一般)	200名		
不明(無答)	60名		

質問1・この企画を何で知りましたか？

1)ポスター……88名 2)図書館掲示板……326名
 3)同窓会報……13名 4)大学祭パンフ……87名
 5)その他……120名(新聞・テレビ・ラジオ・びあ・知人 他)
 不明(無答)……27名

質問2・あなたは、アウシュビッツについて何か知っていましたか？

1)よく知っていた……124名
 2)その事実について少し知っていた……451名
 3)言葉だけ知っていた……40名
 4)全く知らなかった……38名
 不明(無答)……8名

質問3・あなたは、聖コルベ神父を知っていましたか？

1)よく知っていた……90名
 2)名前だけは知っていた……194名
 3)全く知らなかった……358名
 不明(無答)……19名



感想文から

*今回、絵・写真・ビデオ等で具体的に知らされて、人間が同じ人間に対してここまでひどいことができるなんて・・・
 (本学学生 19歳 女)

*アウシュビッツという名前だけ知っていたものの、どうせ外国のことだからと、大して関心も持たなかった。だけどこんなひどい事実があったことを初めて知った。今回、この展示会を見て良かった。(本学学生 19歳 女)

*推薦入学審査の付添で大学に来た高校生の母親です。秋の日射しの芝生の上で昼食をとったあと、図書館の「アウシュビッツ展」が目に入り入館しました。人間の犯した愚かな事実に身震いしました。若い学生の皆さんにより多く見ていただきたいと思いました。(学外者 46歳 女)

*今まで世界史の授業の中でもこういったことは教えてもらえなかった。すばらしい企画だと思いました。世の中にはさまざまな情報が氾濫している(図書の数か星の数ほどあるように)反面私達が知っていることはとても限られている。世界の歴史がもつ事実、真実そういったことを教えていただいた気がする。ありがとうございました。(本学学生 26歳 女)



*かわいそうな写真や、外国のことがわかりました。(学外者 12歳 女)

*涙が出てしかたありませんでした。平和の時代に生まれ平和しか知らない自分の前にこんなすさまじい時代があったことを改めてショックでした。(本学学生 18歳 女)

*もっと詳しく知りたいという気持ちになりました。私はアウシュビッツについて知らないで、この展示会を見てもっと本など読んでみようと思います。渡された資料に文献目録がのっていたのがとてもうれしかった。(学外者 19歳 女)

*以前アウシュビッツ関係の資料を図書館で探したことがあったが、こんなに沢山あるとは思わなかった。(本学学生 21歳 女)

*アウシュビッツ展は以前名古屋市内で見て大変ショックを受けておりました。今回は関連図書が数多く紹介されていたので、是非読みたいと思

います。(卒業生 34歳 女)

*多くの資料があり、興味が持てるものばかりで良いと思う。ポーランド語の資料は特に「事実を見た」という感想を持たされるものでとても良かった。(本学学生 19歳 女)

*展示されている本をながめて見ても、実に多くのアウシュビッツに関する本が出版されているのにあらためておどろかされた。新聞のデータベースの収集にもおどろかされた。開かれた図書館ということで結構なことだと思います。(卒業生 33歳 男)

*自分も含めアウシュビッツのこと(例えばコルベ神父)を知らない人が多い。知らなければならぬことであるのに。(本学学生 21歳 女)

*人間の強さとは何でしょう。コルベ神父のような強さ?それとも物理的な強さ? 権力? (学外者 23歳 女)

*この展示について一番大きな収穫となったのはコルベ神父というお方を知ることが出来たことです。このコルベ神父の勇敢な行動に今まで私自身気にとめる機会がなかった「人間の尊厳」とは何であるか、そのためには何をすべきかのヒントがあるように思えます。(本学学生 20歳 女)

*非常に質の良い展示会だと思います。また準備された方の苦勞がしのべれます。普段の仕事と並行して開催するのは大変だと思いますが図書館の新しい役割としてとても良いと思いました。(? 28歳 女)

*写真パネルにとっても強い印象を受けた。視覚からの情報の方が受入れやすかった。気持ちがとてもしずんでしまった。(本学学生 23歳 女)

*ビデオではコルベ神父を見ました。こういう場ではその場でじっくり本を読むわけにはいかないので、ビデオの使用はとても良かった。もう少し広いスペースがとれるのでしたら本を読む机と椅子があれば良かったと思います。(本学学生 20歳 女)

*大変興味深い。ただ「アウシュビッツ展」のような性質の展示会は、見る側の心構えとして、感傷的ではなく冷静に見なければならない。感傷的になったのでは有害無益。(本学教職員 43歳 男)

*大学というのはこういうことも学べる場所であるべきだと思います。毎年開催して後輩にも見る機会があるようにしていただけたらと思います。(本学学生 21歳 男)

学生部主催講演会

演 題 アウシュビッツ ー平和を、人間の尊厳を、求めてー

講 師 田口雅弘氏(岡山大学教養部助教授)

日 時 11月9日(土) 午後1時~2時30分

場 所 M2教室

聴講者 約40名



《GEMMA便利帳》

困った時の虎の巻シリーズ 1 初級編

GEMMAを使っていて、「あっ!壊れた、まずい...」と思った経験はありませんか? そんな時、あせって適当なキーを押しまくって自ら墓穴を掘る人や、知らぬの半兵衛さんを決め込んでどこかへ行ってしまふ人も、今日、この「虎の巻シリーズ」を読めばもう大丈夫です。GEMMAは机から落とさない限りそうそう壊れるものではありません(力一杯殴る、という行為は同じ効果がありますので慎んでください)ので、安心して使ってください。

症例1. 「無効なキーが押されました」または「やり直してください」のメッセージが出て、何を押しても反応がない。

PF3=リスト PF4=検索 PF7=P戻し PF8=P送り PF12=終了 前面+終了=出納票
SB CAPS 半角 XX 無効なキーが押されました。 2

簡単です。ビデオを見ているあなたの横で、父親が、「チャンネルが変わらん...」とブツブツ言いながら、TVのリモコンをいじっているようなものです。

キーボード左下にある「取消」キーを押してください。

症例2. リスト表示を見ようとして、「PF2」を押したら、おかしな画面が出てしまった。

I2918 以下の定形フィールドがあります。
(フィールド名 | バラグラフ | 長さ | タイプ) :
CLS 25 A ISSN 8 A NACISID 10 A RSN
SORT 19 A TXTL 4 A YEAR 4 A

これは検索結果が0件だったに気づかずに「PF2」を押すと起きる現象です。深く諦めて「PF3」を押し、検索画面に戻り、再検索してください。

症例3. 出納票を出そうと思って、「前面+終了」キーをしたら、いつもの「PF1」の画面がない。

現在、出納票の画面は見ることができません。
現在、出納票の画面は見ることができません。

【RIYOU】とタイプして、「改行」キーを押してください。いつもの「PF1」の画面に戻ります。
ただし、横の三角柱の表示が「利用出来ます。但し、出納票の打ち出しは出来ません」となっていたら、出納票のことはキッパリと諦めてください。

GEMMAデータベース現況 1991.11.30現在

(単位: 書誌レコード数)

種 別	図 書		雑 誌	
	洋図書	和図書	洋雑誌	和雑誌
	69, 784	74, 584	4, 848	6, 252
合 計	144, 368		11, 100	

(システム係・三谷靖司)

National Reporter Systemを使いこなす その2

前号(デマミ11号)でNational Reporter Systemを紹介したが、今回はNational Reporter Systemを使いこなすための以下3つのポイントについて説明しよう。

- 1.判例の引用方法を把握する。
- 2.Key Numberの使い方を知る。
- 3.同一判例の別の引用方法を知る。

ポイント1 判例の引用方法を把握する。

法学の分野では他の分野と違って、判例や文献を引用するとき例外なく略語が用いられているので戸惑う人も多いことだろう。

National Reporter Systemの判例集の略語については前号で示したとおりであるが、さて判例は実際どのように引用されるのだろうか。

-----Adams v. State, 299 N.E.2d 834 (1973)

これはAdams(原告)対State(被告)事件であり、North Eastern Reporter second seriesの299巻の834頁からこの事件が載っていることを示している。括弧内は判決された年である。つまり、事件、巻数、判例集の略号、頁数、判決年を順に掲げるのが基本的な引用のしかたである。

また、引用する場合にofficialなものとunofficialなものを同時に並べる慣行が広く行われている。例えば、

-----Winston v. Lee, 470 U.S. 753, 105 S.Ct. 1611 (1985)

このようにWinston対Lee事件がofficial reportsであるUnited States Reportsの470巻753頁と、unofficial reportsであるSupreme Court Reporterの105巻1611頁に載っていることを示し、official reportsの方を先に示す。

ポイント2 Key Numberの使い方を知る。

アメリカの法律制度は先例に基づいており、アメリカ法を研究する人は現在調べている問題に類似した判例を探すことが必要となってくる。そこで役に立つのがKey Numberであり、National Reporter Systemシリーズの特徴ともいえるものである。このKey Number Systemとは判例全体を400以上の判例要旨の内容を示す項目に分類したやり方で、各判例要旨ごとに、例えば、criminal law 399というような形でこの分類記号を表示する、という仕組みをとる。

つまり自分が調べている問題に関連のある1つの判例を探しだせば、その判例から引用されている他の判例集も知ることができるし、Key Numberによっても各巻末のKey Number Digestを使って巻ごとに追っていけば自分が調べている特定の論点に関する判例を探しだすことができる。また、判例要旨によるすべての判例の索引といえるAmerican Digest System[所蔵せず]を利用すれば、これはKey NumberによってNational Reporter Systemと結び付いているものなので前述した方法より容易に関連判例が要旨つきで引き出せる。このように、膨大な量のなかから必要な判例を見つけるための手引きとなるものがKey Numberなのである。

ポイント3 同一判例の別の引用方法を検索する方法を知る。

引用する際、officialのほかunofficialも示すのが通例であるため、official(unofficial)の判例集の何巻何頁にある判決はunofficial(official)の判例集のどこにあるか、を調べることも必要となってくる。とくに連邦最高裁判所の判例の場合、official reportsであるUnited States Reportsでのみ引用されていることが多い。その場合、National Reporter Blue Book(official→unofficial)、State Blue and White Books(unofficial→official)等で調べることが出来るが、残念ながらこういったものは当館は所蔵していない。ただし、連邦の場合のみは、unofficialのSupreme Court
(次ページに続く)

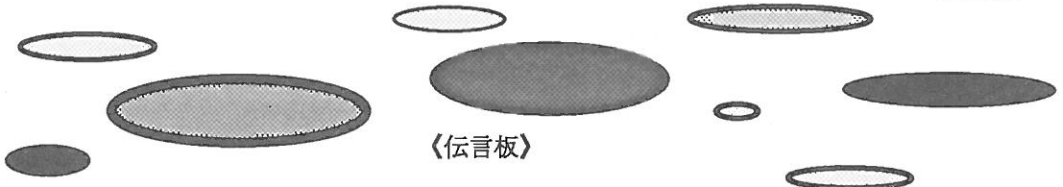
Reporterは背にofficialのUnited States Reportsの何巻から何巻までを収めているかを記している(図参照)調べることができる。ちなみにUnited States Reports[請求番号USGP/7715 v.429(1976年)~v.484(1987年)のみ所蔵]は合衆国最高裁判所の判決のofficial reportsであり、この裁判所の全判決を収めている。そして第106巻(1882年)以降、Supreme Court Reporterと対応している。

National Reporter Systemはofficialと比べて判例の数が非常に多く、Key Number Systemという便利な判決検索手段をもつ特徴があるため、現在若干の州が自らのofficial reportsの刊行をやめ、州の判例集としてはほとんどの場合National Reporter Systemが用いられている。しかし、このシリーズの創刊が1870年代~1880年代にかけてのことであるため、それ以前の判例はofficial reportsによらねばならないことを付け加えておこう。

☆ ☆ ☆

以上、2回にわたってNational Reporter Systemの使い方について紹介をしましたが、おわかりいただけたでしょうか。7月法を研究している方、待ち望んでいたNational Reporter Systemがやっと南山大学図書館にも入ったのです。是非、利用して下さい。

(参考係・後藤 眞貴子)



《伝言板》

長期貸出のお知らせ

試験期間に伴い、春期の長期貸出がいよいよ開始されます。

〈春期長期貸出受付期間〉

1月23日(木) - 2月8日(土)

〈対象〉

1年生 - 3年生

〈特典〉

長期貸出の手続きを行えば、いつもより長めの貸出が可能。

さらに、貸出冊数は一人10冊までと、けっこう太っ腹です。

年に2回しかないこの特別な期間、せっかくですから上手に活用してください。

※4年生の卒論貸出は1月31日で終わります

《ライブラリアンズ・ハート》

機械もんですから…

「すいませ〜ん、ゲンマ^{注1)}が変になっちゃったんですけど。」

今日も、利用者の声に呼ばれて端末のところへ行く。

「これはプリンターの印刷が不可になっていたので、ここをこうやって…こうしてっと。さあ、どうぞ」

「どうもすいませ〜ん」 …… いえいえ、こちらこそパソコンのトラブルで迷惑をおかけしまして。

これならまだいい。「お待ち下さい」が続いて、呼び止められたときはこちらもつらい。

「しばらく待って下さい」

「しばらく待っているんですけど」

… ☆ * § # ◎ ※ …… これもまだいい。待てば動くハズ。^{注2)}

ホストコンピュータがトラブルの時は、出納票が出せなかったり、検索そのものができなかったり、全くお手上げの状態となる。

う〜ん、いかんいかん。だんだん悪い方、悪い方に話が進んできた。縁起の悪い話は止めてGEMMAの陰ながらの努力の一端を紹介しましょう。

現在、GEMMAには1985年以降に図書館に入った図書約14万件と全雑誌約1万1千件があり、現在も新規受け入れのものを中心に増え続けています。これらデータの取り込みを利用者の検索のじゃまにならないように、深夜、徹夜運転で行っています。(不眠不休の働き者。えらい！ いいえいいえ)

また、使うことに慣れてきた人には、より便利なコマンド検索といった方法も持ち合わせています。(レベルに応じたこの配慮。にくいね)

…まだまだありますが、このようなこぼれ話はGEMMA便利帳に譲るとして…あ、また利用者が呼んでいますのでこのへんで。

時には、レスポンスが悪くてイライラすることもあるでしょうが、ご愛顧ください。

^{注1)} 南山大学図書館の目録検索システムの名前は、GEMMA (ジェンマ) です。念のため。

^{注2)} 耳よりな情報：朝10時頃までと4時以降は比較的端末も空いていますし、レスポンスも速いですよ。ね、耳よりでしょ。

(システム係・笹山 達成)

新年あけましておめでとうございます。学生の皆さんも卒論の仕上げに、学年末試験の準備に余念のない1日だと思います。図書館も皆さんのお役に立てるよう益々精進いたしますので、どんどん利用して下さいね。

さて、私が図書館で仕事をしていて感心するのは、皆さん本当によく勉強しているなということです。私が学生の頃は(ほんの4、5年前ですが)図書館利用の目的は1寝る、2待ち合せ、3時間つぶし、と決まっていた。もちろんこれは私を含むほんの一部の学生だったとは思いますが、まあ、あまり勉強熱心な良い学生ではなかったのです。それでもマナーだけはきちんと心得ていました。皆さんも図書館利用の原則はご存じですよ。そう、1飲食厳禁、2私語を慎む、この2点につきるでしょう。ところが、近頃ちらと見る限りではどうもその辺が怪しいのです。グループ閲覧室でもないのに大きい声で喋ったり、お菓子の袋を広げて、周りにジュースを持って座っていたり…。さながらパーティ会場です。館員と視線が合っても臆することなくその状態を続ける姿に天晴れと拍手を送りたいところですが、でも規則は規則。それも最少限のエチケットです。止めてもらわなければなりません。注意をしながら、とても寂しい気持ちになります。恥ずかしい思いでいっぱいです。何故こんなことで注意しなくてはならないのかと…。

大学はたしかに自由な空間です。皆さんに規則に束縛されることなく過ごしてほしいのですが、半面、自らを戒めてまねなくてはならないこともたくさんあると思うのです。図書館でも、勉強だけでなく、ちょっとしたエチケット、守れるように心掛けて欲しいものですね。

(図書受入係・尾上 登母)

ライブラリーカレンダー 1992.1 ~ 1992.3

1 月				2 月				3 月			
9:00	3:30	6:30		9:00	3:30	6:30		9:00	3:30	6:30	
	0:00	4:30	長 書		0:00	4:30	書		0:00	4:30	書
1(水)	元 旦	冬季休館		1(土)			★	1(日)			
2(木)		1月6日まで		2(日)				2(月)			
3(金)				3(月)			★	3(火)			
4(土)				4(火)			★	4(水)			★
5(日)				5(水)			★ ★	5(木)			
6(月)				6(木)			★	6(金)			
7(火)				7(金)			★	7(土)			★
8(水)			★	8(土)			★ ★	8(日)			
9(木)				9(日)	休館	平成3年度		9(月)			
10(金)				10(月)	入学試験の			10(火)			
11(土)			★	11(火)	ため			11(水)			★
12(日)				12(水)	2月13日まで			12(木)			
13(月)				13(木)				13(金)			
14(火)				14(金)				14(土)			★
15(水)	成人の日			15(土)			★	15(日)			
16(木)				16(日)				16(月)			
17(金)				17(月)				17(火)			
18(土)			★	18(火)				18(水)			★
19(日)				19(水)			★	19(木)			
20(月)				20(木)				20(金)	卒業式		
21(火)				21(金)				21(土)	振替休日		
22(水)			★	22(土)			★	22(日)			
23(木)			★	23(日)				23(月)			
24(金)			★	24(月)				24(火)			
25(土)			★ ★	25(火)				25(水)			★
26(日)				26(水)			★	26(木)			
27(月)			★	27(木)				27(金)			
28(火)			★	28(金)				28(土)			★
29(水)			★ ★	29(土)			★	29(日)			
30(木)			★					30(月)			
31(金)			★					31(火)			

：開館時間

長:春期休暇中長期貸出取扱期間

書:3・4年次生書庫入庫日(水曜pm 1:00~4:30, 土曜am 9:00~11:30)

GEMMA講習会、文献探索講習会は、4月より再開します。

【編集後記】

昨秋のアウシュビッツ展はいかがでしたか？

今後も「人間の尊厳のために」を問うて

ゆきたいと思っております。(Y. K., K. M.)

今年も激動の一年か！

情報の海に流されないように(C. I.)

(タイトルデザイン: 平松富美)

南山大学図書館報 デュナミス No.12

1992.1.1発行

南山大学図書館 広報委員会

編集委員: 近藤、眞野、石井

〒466 名古屋市中区和山里町18

Tel. 052(832)3707

Fax(G3) 052(833)6986